令和 9 (2027) 年度

学生募集要項
医学部

総　合　型　選　抜

獨協医科大学
Dokkyo Medical University

CONTENTS

建学の理念／教育理念／アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）…… 1
獨協医科大学総合型選抜に出願される皆さんへ…… 4
◇ 獨協医科大学はこういう大学です…… 4
◇ 獨協医科大学が総合型選抜入学者に求めるもの…… 7
◇ 教授から総合型選抜受験生へのメッセージ…… 8
◇ 総合型選抜…… 9
募集学科・人員 …… 9
出願資格 …… 9
出願手続 …… 9
出願方法 …… 10
試験日・試験場及び試験方法 …… 11
選抜方法 …… 12
合格発表 …… 13
入学手続 …… 13
◇ 学納金等について…… 14
入学時納入金 …… 14
納入金返還申し出期限 …… 14
在学6年間にかかる学納金 …… 14
奨学金制度 …… 14
寄付金 …… 14
◇ 入学前教育について…… 15
◇ 疑義申立てについて…… 15
◇ 個人情報の取扱いについて…… 15
◇ 試験場案内図…… 16

建 学 の 理 念

1）人間性豊かな医師及び看護職者の育成
2）能力の啓発に重点を置く教育方針
3）地域社会の医療センターとしての役割の遂行
4）国際的交流に基づく医学・看護学研究

教 育 理 念

患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師の育成。

アドミッション・ポリシー
（入学者受入れの方針）

本学の建学の精神、医学部教育理念、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいて教育を行うため、次のような基本的な素養を満遍なく備える人を入学生として求めます。

＜求める入学生像＞

1）医学を学ぶ強い意志を持っている人

2）医学を学ぶ上で必要な基礎学力を有し、計画性を持って学習に臨み、自ら問題を解決する能力のある人

3）理性と常識を備え、社会に貢献する意欲のある人

4）協調性とコミュニケーション能力を持ち、他者の立場になって物事を考え行動できる人

5）国際的視野を持って医学を志す人

獨協医科大学医学部では受験生に対し、入学生に求めるこれらの素養及び学力の3要素（①知識･技能、②思考力･判断力･表現力、③主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学修する態度）を踏まえ、多面的･総合的に評価･判定するため、次のとおり様々な選抜方法を導入しており、各選抜方式の特性に応じ、各種の試験方法を取り入れて、公平かつ公正な入学者選抜を行います。

＜各選抜方式の概要＞

⑴　一般選抜（前期・後期）
　　学力試験結果に重点を置き評価する。

⑵　総合型選抜
　　多様な試験結果を総合的に評価する。

⑶　学校推薦型選抜（公募（地域特別枠））
　　出身高校の推薦に重きを置き評価し、併せて地域医療貢献への意欲等を評価する。

⑷　学校推薦型選抜（指定校制）
　　出身高校の推薦に重きを置き総合的に評価する。

⑸　学校推薦型選抜（指定校制（栃木県・埼玉県・茨城県地域枠））
　　出身高校の推薦に重きを置き評価し、併せて対象とする県の地域医療貢献への意欲等を評価する。

⑹　学校推薦型選抜（系列校）
　　出身高校の推薦に重きを置き総合的に評価する。

⑺　一般選抜（栃木県・新潟県地域枠）
　　学力試験の結果に重点を置き評価し、併せて対象とする県の地域医療貢献への意欲等を評価する。

＜入学までに求める学習成果＞

　医学部では、多様な学問分野を学修することから、将来、医師となり活躍するために必要な学力、倫理観、医学や社会への高い関心などを身に付けておくことを望みます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の内容は本学ホームページを参照ください。
https://www.dokkyomed.ac.jp/dusm/overview/philosophy.html

「学力の3要素」を踏まえた多面的・総合的評価について

◎：特に強く関連　　○：強く関連

入試種別		評価方法	知識 技能	思考力 判断力 表現力	主体性を持って 多様な人々と 協働して学ぶ態度
総合型選抜	総合型	自己申告書等			◎
		適性試験	◎	○	
		小論文	○	◎	
		面接		◎	◎
		プレゼンテーション		◎	
学校推薦型 選抜	公募（地域特別枠） 指定校制 指定校制（栃木県地域枠） 指定校制（埼玉県地域枠） 指定校制（茨城県地域枠） 系列校	調査書			◎
		自己申告書等			◎
		適性試験	◎		
		小論文		◎	
		面接		◎	◎
一般選抜	一般（前期） 一般（後期）	調査書			◎
		学力試験	◎		
		小論文		◎	
		面接		◎	◎
	栃木県地域枠 新潟県地域枠	調査書			◎
		学力試験	◎		
		小論文		◎	
		面接		◎	◎

〔禁煙への取組について〕

獨協医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

獨協医科大学

総合型選抜に出願される皆さんへ

◇　獨協医科大学はこういう大学です

獨協医科大学の母体である獨協学園は、1883（明治 16）年に西周を初代校長として開校された獨逸学協会学校（現在の東京、目白にある獨協中学・高校の前身）から出発し、ドイツ文化の習得・普及を介して日本の発展に寄与してきました。その結果、戦前には全卒業生の 4 割以上が医療関係者として日本全国で活躍し、医学界の中心を獨協出身者で占める状況が続いていました。戦後、このような状況を踏まえ、学園内に医科大学を設立しようとする機運が盛り上がり、1973（昭和 48）年 4 月に栃木県壬生町の地に開学することができました。

これまでに 5,039 名の医師を世に送り出し、日本全国で地域医療に貢献しています。また博士（医学）も 1,802 名誕生しており、本学に残って後輩の教育に携わっている者も多く、現在、教授 24 名、准教授 42 名がそれぞれの分野で活躍しています。

近年医学教育界においては急速な改革が行われており、本学においても教育理念に掲げた「広く社会一般の人々から信頼される医師の育成」に向けて、必要なカリキュラム改革を行っています。

教育課程については、低学年から高学年までオーバーラップしながら、高い見識や倫理観、国際的視野等を身に付けつつ医学を学修することができる、いわゆる「くさび型教育カリキュラム」を展開しており、基本的な医学知識の修得から診療参加型臨床実習に至るまで段階的かつ連続的なカリキュラムを編成しています。

一方、医学へのモティベーションを高める目的で、「コミュニティヘルスインターンシップ（CHI）（地域医療早期体験実習）」、「地域医療学」を開設する他、倫理学・法学・行動科学等を低学年時に履修し、その後、研究倫理・多職種連携・医療倫理等、順次性をもった 6 年一貫のプロフェッショナリズム教育を行う「メディカル・プロフェッショナルリズム」を開設しています。

また、自由選択科目として、地域社会で求められる医療、保健、福祉活動を理解し、実習等を行う「地域包括医療実習」（一部学生は履修を必須）や医科学の研究がどのように行われているかを理解するとともに、科学的思考力の育成を目的とした「医学研究室配属」を開設しています。

本学を卒業して医師国家試験に合格した卒業生は、医師としての第一歩として、2 年間の初期臨床研修に臨みます。

大学に隣接する獨協医科大学病院は厚生労働省の定める基幹型臨床研修病院に指定されており、多くの本学卒業生が臨床研修に励んでいます。医師法に規定される医師臨床研修制度に則った研修プログラムを整備し、豊富な症例と経験豊かな指導医陣の下で、即戦力として立派に活躍できる医師を育成しています。初期臨床研修修了後は各種専門分野を学ぶため、専門研修に移行します。獨協医科大学病院は専門研修プログラムを整備しており、希望者はレジデント（専攻医）として、さらに専門分野を学び各種専門医資格の取得を目指すことができます。

獨協医科大学病院では、次の 5 つの理念を掲げ、診療・教育・研究を基盤として、特定機能病院としての役割を果たしています。

1）医療倫理の徹底
2）高度で良質な医療の提供
3）医療の進歩への貢献
4）連携医療の構築
5）良質な医療人の育成

当院は、33 の診療科に加え、認知症疾患医療センター、総合周産期母子医療センター、救命救急センター、とちぎ子ども医療センターなど、30 のセンターを擁し、充実した診療体制を整えています。また、地域の高度急性期医療を担う中核医療機関として、特に救急医療体制の充実に注力して取り組んでいます。三次救急医療機関である救命救急センターを有し、重篤な患者さんの受入れに 24 時間 365 日対応するとともに、地域からの幅広い救急要請に応えています。さらに、栃木県ドクターヘリの基地病院として、医師・看護師が現場へ出動し、迅速な初期治療を行うとともに、患者さんを適切な医療機関へ搬送する重要な役割を担い、広域における救命率の向上に大きく貢献しています。加えて、災害拠点病院として大規模災害時の医療提供体制を整備しています。DMAT（災害派遣医療チーム）及び DPAT（災害派遣精神医療チーム）の体制を構築し、発災直後から被災地へ迅速に出動できる体制を確保するとともに、平時から訓練を重ね、災害医療の中核として地域に貢献しています。

1984（昭和 59）年には、埼玉県越谷市に埼玉医療センター（2017（平成 29）年 11 月に名称変更）を開院しました。当センターは許可病床数 928 床の急性期病院であり、人口が増加している越谷市を中心とした埼玉県東南部の約 200 万人の住民の方々の健康を守るべく、地域の医師会や医療機関と親密に連携しながら、約 2,500 人の職員がチーム医療に徹し、日々多忙な医療業務を行っています。手術室は全国的にも最大級で、術中 CT 撮影室、無菌室、ロボット支援下技術手術室等の最先端の機器（da vinci.hinotori™）、設備を有しており、毎年 12,000 件を超える手術を施行し、さらに増加傾向にあります。

教育面においては、獨協医科大学の臨床部門に属し第 3・4 学年の講義と第 5 学年の臨床実習（Clinical Clerkship）、第 6 学年の臨床実習（Advanced Clinical Clerkship）及び集中講義を一部分担するとともに、本学卒業後の臨床教育を担当しています。

教育病院として“病気を診るのではなく、病気になった人間を診る”ことを念頭においた医療を実践でき、最新の医療に対応できる質の高い医療人を目指しているのが特徴です。

また、大学病院、埼玉医療センターに続く本学 3 番目の医療機関として、栃木県日光市に日光医療センターを 2006（平成 18）年に開院、2023（令和 5）年 1 月には新病院へ移転新築しました。ここでは、21 の診療科と 199 の病床を備え、「地域社会の信頼に応える基幹病院として、医療を求める人々におもいやりの心を持って接し、安心・安全かつ高度で良質な医療を提供します。」という基本理念のもと、指定管理者制度による日光市立三依診療所の運営や、日光地区の病院輪番制（二次救急）病院として救急医療に参画し、2016（平成 28）年 3 月に地域災害拠点病院及び栃木県 DMAT 指定病院、2019（平成 31）年 4 月に地域医療支援病院に認定されました。

これまで以上に、国際観光都市の基幹病院として、急性期医療からリハビリテーションまで切れ目のない医療サービスを提供していきます。

獨協医科大学では、実践的な臨床教育だけではなく、最新の高度医療を提供できる医師に必要なサイエンス・マインドを高めるために、大学院医学研究科博士課程が開設されており、基礎医学や臨床医学の各専門分野の高度な研究活動の拠点となっています。各研究室には最新の研究設備や機器類が整備され、病気の原因究明や治療法の改善を目指した先進的な医学研究が共同利用体制の下に進められています。

このような環境の中で、皆さんが本学の教育理念である「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師」を目指してのびのびと学び、卒業後は医学・医療の様々な分野において指導的な役割を果たしてくれることが私たちの願いです。

◇　獨協医科大学が総合型選抜入学者に求めるもの

21 世紀の医学・医療がさらに発展していくために、次世代の優れた人材を育成していくのは大切なことであり、それは獨協医科大学の使命でもあります。本学では開学以来の一般入学試験に加えて、1981（昭和 56）年度から指定校制推薦入学試験、1998（平成 10）年度から学士編入学試験、2002（平成 14）年度から大学入試センター利用入学試験（2025（令和 7）年度廃止）を導入しており、多様な人材構成によるクラスの活性化を通して学習効率の向上を目指してきました。2004（平成 16）年度から、新しい入学者選抜方式として従来の学士編入学試験を発展的に解消して本選抜を導入した目的は、他分野において豊富な経験や才能を発揮した人材をクラスに迎え入れて、お互いに協力し、理解し、そして切磋琢磨しあうことで生まれてくる相互信頼関係を育むことにあります。

総合型選抜入学者は、他分野で培った研究経験を存分に活用し、相互信頼関係を育む中核としてリーダーシップを発揮して、互いの自己学習能力を高め合うことが求められます。さらには、それらを通じて、同級生から全学生へとリサーチマインドを波及・醸成させていく存在としての活躍も期待されます。

総合型選抜は、一般に「学力よりもそれ以外の能力を重視する入学者選抜」として捉えられがちですが、医学部においては、たゆまなく進歩する膨大な医学の知識・技能・態度を効率よく習得することができる能力を求めます。さらに、卒業後も信頼される医師として活躍するためには、生涯に渡って自己研鑽を続けていくことが必要です。したがって、医学部における総合型選抜入学者はそれに対応できるだけの学習能力をすでに持っていることが大前提になります。私達が考える「学力」とは、「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」という三つの力の総和であると考えています。この三つの力をバランスよく身につけるためには、「学ぶ意味」をよく理解している必要があります。さらに本学においては、豊かなリサーチマインドを基とした「発信」も求めます。すなわち、「研究する意味」についても理解が必要です。

本学が総合型選抜入学者に求める資質として、「Compassionate」「Competent」「Communicate」という「三つの C」が必要だと考えています。「Compassionate」とは、人の痛みや苦しみを敏感に察知して、それを心からやわらげたいと思える人間性を持つことです。「Competent」とは、自分の持っている知識を総動員して目の前の困難を切り開く能力を持つことです。医学の進歩に対して自己学習を怠らず、自分自身を常に内省し、改善点を見つけてはそれを直していくという不断の努力が要求されます。「Communicate」とは、患者だけではなく、同僚医療人や世界の医学文献から正確な情報収集を行い、それを整理して価値判断を下し、目の前の患者に最適の治療を提供する能力を持つことです。

総合型選抜入学者は卒業後、医療、研究、後進の育成など幅広い分野で活躍していただき、本学発展の原動力となることが期待されています。したがって、総合型選抜入学者に求められる最も重要なことは、獨協医科大学がどういう大学であるかをよく理解した上で、なぜ本学の一員になりたいのかについて明確な意識を持っていることです。

◇　教授から総合型選抜受験生へのメッセージ

獨協医科大学医学部の総合型選抜入学試験は、4 年制以上の大学を卒業又は 2 年次までの課程を修了した方を対象としています。2004（平成 16）年度から始まった総合型選抜では、学力試験の点数だけでは測ることのできない、受験生の皆さんの経験や人間性、将来への強い志を重視しています。皆さんの経験と人間性が同級生を刺激し、切磋琢磨することで学年全体の学修能力を高め、医学の進歩に貢献できる医師に育っていかれることを期待しています。

受験生の皆さんは将来どんな医師を目指しておられますか。多くの医師は臨床医となりますが、基礎医学に進まれる方や厚生労働省や保健所など行政の仕事に就かれる方もいます。臨床医にも様々な役割があり、多くの患者さんを診療するだけでなく、よりよい治療を開発するため臨床試験に取り組んだり、診療で得られる患者さんの検体を用いて薬の耐性メカニズムや薬の効きやすさを予測するなど、基礎研究と臨床研究を橋渡しする研究に取り組んだりしています。医学は日進月歩で進化し、毎年あらゆる新しい薬が開発され、日常診療で使われるようになっています。常に新しい情報や知識を吸収し、最新の有効な治療を提供することが求められます。私が専門としている肺がんの薬物治療では、2002（平成 14）年以降、がん細胞の増殖に関わる特定の遺伝子変異（ドライバー遺伝子）を有する肺がんを対象とした分子標的薬が、また、2015（平成 27）年以降には、免疫細胞のはたらきを抑制する免疫チェックポイントを阻害し、免疫細胞ががん細胞を攻撃するように仕向ける免疫チェックポイント阻害薬が用いられるようになってきました。治療成績は飛躍的に向上していますが、有効性と安全性を高めるために解決すべき課題は多く、研究を重ねていく必要があります。

獨協医科大学には、大学病院（1,195 床）、埼玉医療センター（928 床）、日光医療センター（199 床）の 3 病院があり、北関東でトップクラスの症例数を誇ります。若手医師にとって多くの症例を経験することは、医師として成長するのに極めて重要なことです。日本の医療提供体制には、高度な専門医療の集約化と地域で継続的なケアを行う均てん化の流れがあります。我々の病院は地域の基幹病院であるため、高度な専門医療のみならず、ありふれた疾患の診療も行っています。

2025（令和 7）年 10 月獨協医科大学では総合教育研究棟が竣工し、広々とした図書館、学習室を完備し、勉学に励むのにこの上ない環境となりました。是非オープンキャンパスなど現地で学修環境をご覧になってください。

どんなフィールドで仕事をするにせよ、皆さんが医師になって、患者さんのため実地診療のみならず、医学の進歩に貢献するよう活躍されることを切に願っています。どうか獨協医科大学に入学して、我々とともに歩んでいきましょう。

内科学（呼吸器・アレルギー）主任教授　仁　保　誠　治

◇　総合型選抜

○　募集学科・人員

医学部医学科（第 1 学年）　3 名以内

○　出願資格

以下の 1 ～ 6 の条件をすべて満たす者

1. 次のいずれかに該当する者
   1）4 年制以上の大学（外国の大学を含む）を卒業又は卒業見込みの者
   2）4 年制以上の大学（外国の大学を含む）に在籍し、2 年次までの課程を修了している者（出願時の休学者（留学等による休学を除く）及び医学部医学科在籍者を除く）
   3）本学が上記 1）と同等以上の学力を有すると認める者

2. 令和 9 年 4 月 1 日現在で 25 歳以下の者
   （平成 13 年 4 月 2 日以降の出生者）

3. 教育・研究機関などの施設において、文理・専攻を問わず研究経験を有し、本学を第一志望として入学を志す者

4. 本学の学修に適合する分析力・思考力・判断力を有する者

5. 入学後の学生生活において、他の学生の模範となれる者

6. 卒業後も本学の一員として、医学・医療分野においてのキャリア形成を強く希望し、研究・教育活動に積極的に取り組む意志を有する者

※外国の学校等を卒業した方又は在籍中の方で、ご自身の出願資格について不明な点がある場合は、下記の本学ホームページに記載された手順に従い、確認申請してください。
https://www.dokkyomed.ac.jp/dusm/exam/application/foreign.html

○　出願手続

1. 出願期間：令和 8 年 8 月 10 日（月）～ 8 月 25 日（火）（出願書類郵送必着）

2. 出 願 先：獨協医科大学　学務部入試課
   〒 321-0293
   栃木県下都賀郡壬生町北小林 880 番地
   電話　0282（87）2108（直通）

※　いかなる理由があっても、締切日の 17 時以降は受理できません。
早めに郵送していただくなどして、締切には十分に注意してください。

○　出願方法

下記のものを取り揃え、出願期間中（9 ページ参照）に書留郵便により送付してください。

① 志願票A・写真票B・受験票C・検定料納付票D（本学所定の用紙に自筆で記入）

② これまでの大学受験活動歴（本学所定の用紙に自筆で記入）

※ 記述を裏付ける客観的資料として、合格通知やセンター試験又は共通テスト成績、予備校模擬試験成績などのコピーを添付してください。添付資料は返却しないので、原本ではなくコピーを添付してください。

③ 私の過去･現在･未来（本学所定の用紙（B4 サイズ）に自筆で記入：1,800 字以上 2,000 字以内）

※ これまでの大学生活で何を得て今後本学でどのように活かしていきたいのか等、客観的資料（②以外）を添付の上、記述してください。添付資料は返却しないので、原本ではなくコピーを添付してください。

④ 課外活動等の顕著な成績（スポーツ・音楽・芸術等）（本学所定の用紙に自筆で記入）

※ 記述を裏付ける客観的資料を添付してください。添付資料は返却しないので、原本ではなくコピーを添付してください。

⑤ 出身大学及び大学院の在籍･卒業を証明するもの（在籍証明書、単位取得証明書、学位記（コピー）等。ただし、学生証のコピーを除く）

⑥ 出身大学及び大学院の成績証明書

⑦ 写真　2 枚（縦 4cm、横 3cm、無帽上半身正面、令和 8 年 5 月以降撮影のものを志願票A・写真票B（2 か所）に貼付してください。）

⑧ 検定料　60,000 円（本学所定の振替払込用紙を用い、最寄りのゆうちょ銀行・郵便局から払込みをしてください。なお、払込機能付き ATM を利用することもできます。ゆうちょ銀行又は郵便局の窓口から払込みの場合は「振替払込受付証明書（お客さま用）」（原本）を、払込機能付き ATM から払込みの場合は「ご利用明細票（振替受付票）」（コピー）を検定料納付票D に貼付してください。）

⑨ 連絡用宛名シール（受験票の返送に使用しますので、確実に受け取ることができる住所（原則として保護者の住所）及び志願者本人の氏名を記入してください。）

※ 1. 上記の手続を完了した者には、本学から受験票を発行します。
　　なお、出願書類に不備がある場合は受理できない場合があります。

※ 2. 受理した書類・検定料は理由の如何にかかわらず返還しません。

※ 3. 虚偽の記載が判明した場合は、合格を取り消すことがあります。

※ 4. 疾病･負傷や身体障害等により、受験上の特別な配慮を希望する者は、下記の本学ホームページに記載の手順に従い、申請してください。
　　https://www.dokkyomed.ac.jp/dusm/exam/special-measure.html

○　試験日・試験場及び試験方法

＜第 1 次試験＞

1. 試 験 日：令和 8 年 9 月 5 日（土）　入室時間：8:30 ～ 9:00
2. 試 験 場：獨協医科大学（16 ページ参照）
3. 試験方法：Ⅰ．適 性 試 験　　9:30 ～ 11:30
　　Ⅱ．小論文試験　　12:30 ～ 14:30
　　Ⅲ．書 類 審 査
　　※適性試験・小論文試験は記述式。
　　※小論文試験は、英和辞書 1 冊持込み可（電子辞書除く）。

試験当日の注意事項：

① 受験票を必ず携帯してください。
② 試験開始後 20 分以上遅刻した場合は、受験は一切認められません。
③ 昼食は各自用意してください。
④ 机上には、黒鉛筆、鉛筆キャップ、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類は不可）、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマーや学習タイマー・大型のものは不可）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）を置くことができます。
⑤ 試験時間中に使用すると不正行為となる電子機器類は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し、電源を切ってから、かばん等にしまっておいてください。
⑥ 英文字がプリントされている服等は着用しないでください。着用している場合には、脱いでもらうことがあります。
⑦ 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、それ以後の受験ができなくなります。また、受験した全ての試験成績を無効とします。

- 志願票・受験票・写真票、解答用紙へ故意に虚偽の記入（志願票・写真票に本人以外の写真を貼ることや本人以外の氏名・受験番号を記入するなど）をすること。
- カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- 配付された問題冊子・解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- 「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- 試験時間中に携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、タブレット端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- 試験時間中に、定規（定規の機能を備えた鉛筆等を含む）、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用すること。
- 試験時間中に携帯電話などの電子機器や時計などの音（着信・アラーム・振動音など）を長時間鳴らし、試験の進行に影響を与えること。
- 「解答やめ」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。
- 試験に関することについて、自身や他の受験者が有利になるような虚偽の申出をすること。
- 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- 試験場において監督者等の指示に従わないこと。
- その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

＜第 2 次試験＞

1. 試 験 日：令和 8 年 9 月 18 日（金） 入室時間：8:10 ～ 8:30
2. 試 験 場：獨協医科大学（16 ページ参照）
3. 試験方法：Ⅰ．面接試験　9:00 ～
   Ⅱ．プレゼンテーション

試験当日の注意事項：

① 受験票を必ず携帯してください。
② 入室時間を厳守してください。

○ 選抜方法

第 1 次試験は、適性試験・小論文試験の得点及び書類審査における評価を総合して合格者を決定します。

第 2 次試験は、第 1 次試験合格者に対して面接試験、プレゼンテーションを行い、第 1 次及び第 2 次試験の成績を総合して合格者を決定します。

1. 適性試験：
   本学の学修に適合する分析力・思考力・判断力等を評価します。
2. 小論文試験：
   英文の長文課題に基づいた客観的・論理的作文能力を評価します。
3. 書類審査：
   出願書類から推測される日常活動を考慮して社会に向き合う態度、主体性、計画性、医学に対する志、本学への貢献意欲などを評価します。
4. 面接試験：
   1 回当たり 15 分の個人面接を計 4 回実施し、多面的かつ総合的に評価します。
5. プレゼンテーション：
   事前課題・当日課題それぞれに対しプレゼンテーションを実施します。テーマに基づいた資料ができているか、明確かつ論理的に発表できているかなど、思考力・判断力・表現力を総合的に判断して評価します。

事前課題

志願者本人が作成したスライド（出願時に提出）を使用し、1 人につき 5 分間でプレゼンテーションを行います。終了後、内容に関する質疑応答を 5 分間で行います。

※パソコン（Windows）、プロジェクター、スクリーン、レーザーポインター等の必要機材は本学で用意します。

＜スライド作成方法＞

・主題：これまでの学習活動、研究活動、課外活動、社会活動履歴と将来の展望
　副題：私の過去・現在・未来
・PowerPoint（枚数制限なし、動画・音声の挿入不可）で作成してください。
・1 枚目には、必ず主題、氏名を記載してください。

＜スライド提出方法＞

・USB メモリ（ご自身で用意）に保存し、出願書類に同封してください。
・USB メモリを封入する際には、可能な範囲で破損防止対策を講じてください。
　※ USB メモリは、第 1 次試験日に返却します。

当日課題

試験室入室後に提示するテーマに基づきプレゼンテーションを行います。

試験の実施方法等の詳細については、第 1 次試験合格発表の際に本学ホームページの合否照会サイト（13 ページ参照）にてお知らせします。

○　合格発表

1. 日　　時：〈第 1 次合格発表〉令和 8 年 9 月 15 日（火）10:00
　　〈第 2 次合格発表〉令和 8 年 9 月 30 日（水）10:00
2. 方　　法：本学ホームページ（入試情報サイト→医学部→合格者発表）から、合否照会サイトにアクセスし、下記の手順により合否を確認してください。
　　下記 URL 又は QR コードから、直接合否照会サイトにアクセスすることも可能です。

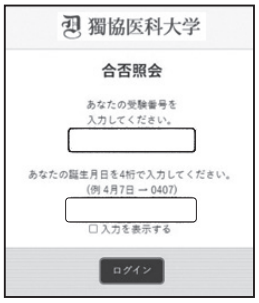
獨協医科大学　合否照会サイト
https://www.postanet.jp/PassPlus/Login?gkcd=012032

＜画面操作方法＞

①受験番号（A + 数字 4 桁）、誕生月日入力

②「ログイン」ボタンを押す

③合否結果を確認



※画面イメージ

【合否照会期間】
1 次合格発表：令和 8 年 9 月 15 日（火）10:00 から 9 月 18 日（金）17:00
2 次合格発表：令和 8 年 9 月 30 日（水）10:00 から 10 月 7 日（水）17:00

注意事項：
＊第 1 次試験の合格通知書はありません。
＊合格通知書は郵送しません。お手元に残したい場合は、合否照会期間内に各自ダウンロードしてください。
＊合格発表に関する問い合わせ、インターネットの操作方法等には一切応じません。
＊インターネットの誤操作、読み違い等を理由とした入学手続期間終了後の入学手続は一切認めません。

○　入学手続

手続期限：令和 8 年 10 月 7 日（水）
（1）合格者にのみ表示される「web 入学手続システム」にアクセスし、入学手続を行ってください。14 ページに記載する入学時納入金を納付し、所定の手続を行うことで完了となります。
（2）入学手続の細目は、合否照会サイトから「入学手続ガイド」をダウンロードして必ず確認してください。
※　指定の期日までに入学手続を完了しない者は、入学の意思がないものとみなします。

◇　学納金等について

○　入学時納入金

下記の「1. 入学費用」と「2. その他の費用（委託徴収金）」の合計金額とします。

なお、入学金を除く学納金（授業料及び教育充実費）については、2 分割納入（分納）の制度があります。

1. 入学費用

項　　目	全納の場合	分納の場合	
		前期	後期
入　学　金	1,500,000円	1,500,000円	−
授　業　料	3,500,000円	1,750,000円	1,750,000円
教育充実費	3,600,000円	1,800,000円	1,800,000円
合　　計	8,600,000円	5,050,000円	3,550,000円

※　分納の場合、入学手続時に当該手続きに関する書類の提出が必要です。

※　教育充実費の分納は初年度のみとなります。

2. その他の費用（委託徴収金）

項　　目	金　　額	備　　考
学友会費	100,000円	入学時のみ
父母会費	600,000円	入学時のみ
合　　計	700,000円	

○　納入金返還申し出期限

入学手続を完了し、令和 9 年 3 月 31 日（水）17:00 までに入学を辞退する旨申し出があった場合には、入学金を除く納入金を返還します。ただし、申し出の期限を過ぎた時は、納入金は一切返還いたしません（委託徴収金を除く）。

○　在学6年間にかかる学納金

項　　目	初年度	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
入　学　金	1,500,000円						1,500,000円
授　業　料	3,500,000円	3,500,000円	3,500,000円	3,500,000円	3,500,000円	3,500,000円	21,000,000円
教育充実費	3,600,000円	2,100,000円	2,100,000円	2,100,000円	2,100,000円	2,100,000円	14,100,000円
合　　計	8,600,000円	5,600,000円	5,600,000円	5,600,000円	5,600,000円	5,600,000円	36,600,000円

※　授業料は 2 年目以降についても 2 分割納入（分納）の制度があります。

○　奨学金制度

・獨協医科大学特別奨学金（第 2 学年以上、年額 60 万円）

・獨協医科大学医学生教育ローン利子補給奨学金

※　総合型選抜入学生で、学費支弁が困難なため、学生又は保護者等学費支弁者が金融機関から教育（学資）ローンの融資を受けた者に対して、経済的負担を軽減する観点から、在学期間中の学納金相当額に係る利子の一部（年額 20 万円を上限）を奨学金として補給しています。

・関育英奨学金（第 2 学年以上）

・獨協医科大学災害罹災等学生に対する授業料減免

・日本学生支援機構奨学金

・民間団体・地方公共団体奨学金　各種

○　寄付金

本学では教育研究施設・設備充実のため、入学後に、別に定める「獨協医科大学教育研究振興資金募金趣意書」に基づき、任意の寄付金を募集します。

◇　入学前教育について

本学では、総合型選抜での合格者に対して、入学前教育を行います。詳細については、12 月 12 日（土）開催の入学予定者オリエンテーションでお知らせします。

◇　疑義申立てについて

入学決定に関する疑義がある場合、疑義の内容・理由をつけて、受験生本人が書面を作成し、申立てをすることができます。

詳細は令和 9 年 4 月中旬頃に医学部 web サイト〔受験生の皆さんページ〕にてお知らせします。

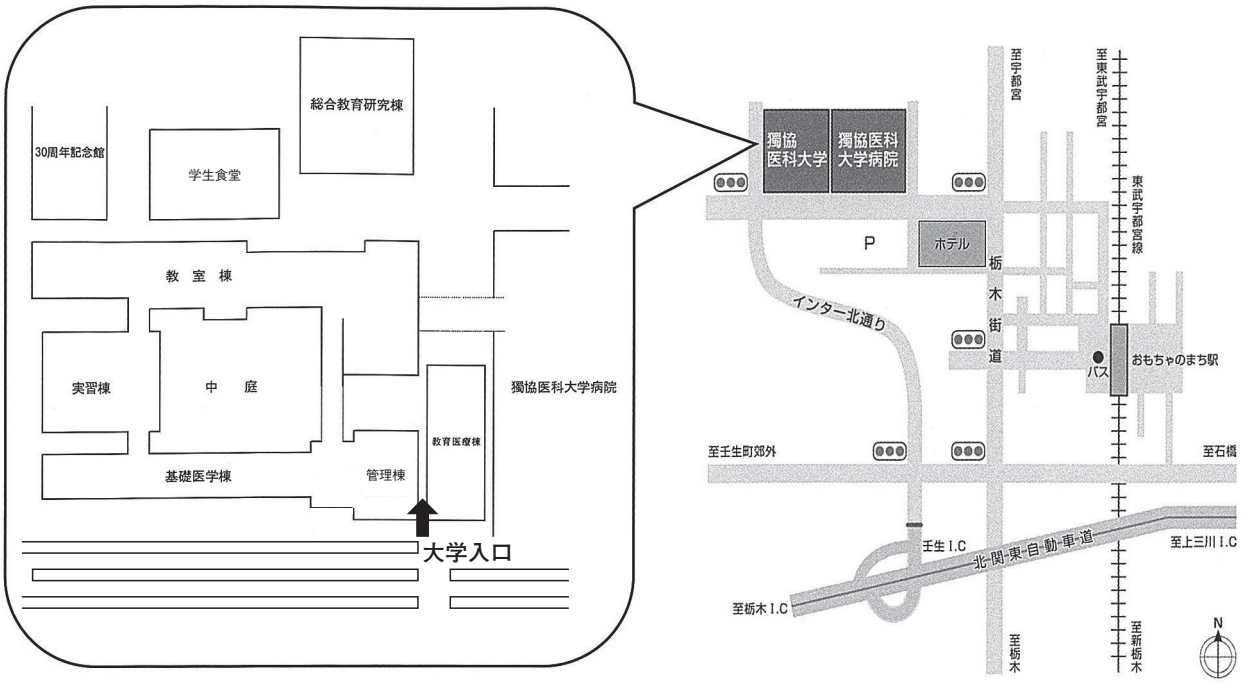
◇　個人情報の取扱いについて

本学では、出願にあたってお知らせいただいた氏名、住所、その他の個人情報は、入学者選抜、合格発表及び入学手続と、これらに付随する業務を行うために利用します。

また、入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入学者選抜方法等に関する調査・分析、入学後の学生生活支援に係る業務に利用します。その他の目的に利用することはありません。

上記業務の一部については、獨協医科大学と秘密保持契約を結んだ業者（以下「受託業者」）で行います。委託業務を遂行するため、受託業者に対して必要な範囲で、お知らせいただいた個人情報を提供します。予めご了承ください。

◇　試験場案内図



電車を利用する場合

・東武宇都宮線「おもちゃのまち」駅下車、西口より徒歩約 15 分（「獨協医大病院前」行きバスにて約 3 分）
・JR「宇都宮」駅より、市内バスにて「東武宇都宮」駅下車（約 10 分）
「東武宇都宮」駅より東武宇都宮線にて「おもちゃのまち」駅下車、西口より徒歩約 15 分（「獨協医大病院前」行きバスにて約 3 分）
・JR「宇都宮」駅より車にて約 35 分、JR「小山」駅より車にて約 45 分、JR「石橋」駅より車にて約 15 分

お車を利用する場合

・北関東自動車道「壬生 IC」から 3 分
・東北自動車道「栃木 IC」から 30 分
・東北自動車道「鹿沼 IC」から 30 分